

## Abstract

# 血友病患者における標準的抜歯方法に関する提案：良好な結果が得られた症例比較試験

## Proposal of a standard approach to dental extraction in hemophilia patients. A case-control study with good results

E. Zanon, F. Martinelli, C. Bacci, P. Zerbinati and A. Girolami

血友病患者の抜歯に際し、第VIII因子（FVIII）製剤または第IX因子（FIX）製剤の単回投与後に抗線溶剤を使用することにより出血の発生率を低下させることができるが、血友病患者の抜歯に関する比較試験を行った報告はほとんど見当たらない。本検討では、77例の血友病患者群における抜歯後の出血頻度を抜歯を必要としている184例の健康男性（対照群）と比較検討した。すべての血友病例にトラネキサム酸 20 mg/kg と、抜歯前の *in vivo* での血中ピーク値が約 30% となるように FVIII 製剤または FIX 製剤を単回投与した。血友病群の抜歯 98 件中 45 件（45.9%）、および対照群の抜歯 239 件中 110 件（46%）は外科的処置によるものであった。出血は、血友病患者群の 2 例（遅発性出血 1 例、麻酔注射部の血腫 1 例）と対照群の 1 例（遅発性出血）でみられた。両

群の出血頻度に統計学的有意差はなかった ( $p = 0.2$ , オッズ比 0.2, 95% CI: 0.01-2.22)。本研究で提唱したプロトコルでは血友病患者の抜歯は、健常者と同様に施行可能で、出血症状の合併頻度も同等であった。さらに本プロトコルでは、血友病患者の抜歯を外来で施行することが可能であることに加え、コストを削減し、患者の苦痛を軽減することができる。

**Table 1.** Main features, number of dental extractions and bleeding complications in haemophilia patients and in the control group.

	No.	Age	No. of dental extractions	No. of bleeding complications
Haemophiliacs	75	32 ± 14.1	98	2 (2.04%)
Control group	184	32.7 ± 7.7	239	1 (0.41%)*

\*  $P = 0.2$  (OR 0.2; CI 0.01-2.22).

**Table 2.** Number and type of dental extractions and number of suture performed in haemophilia patients and control group.

	No. of extractions	Deciduous tooth extraction	Permanent tooth extraction	Surgical extraction	Total of sutured extraction
Haemophiliacs	98	6 (6.12%)	47 (47.96%)	45 (45.92%)	98 (100%)
Control group	239	14 (5.86%)	115 (48.12%)	110 (46.02%)	172 (71.97%)